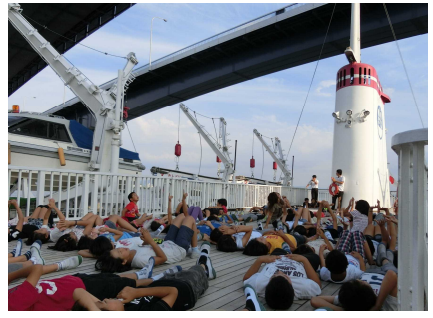


かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>



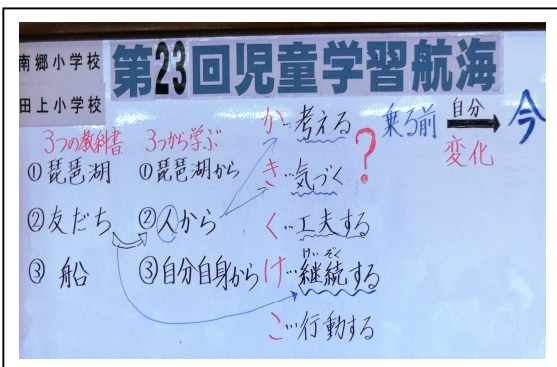
琵琶湖大橋を下から

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」 「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する
け・・・継続する こ・・・行動する

「子どもの心に火をつける！」

【所長 新庄 正幸】



「うみのこ」での2日間のフローティングスクールを振りかえる子ども一人ひとりの「わたしのフローティングスクール」を読むのが楽しみです。航海終了後の子ども達の声に元気をもらっています。

乗船前に予想していたこととの違いや確認・納得・驚きなど、航海を通して様々なことをよくよく実感しています。

「予想より…、意外に…、やっぱり…、初めて…、知っていたけど…」等の言葉が目立ちます。さらに、「新たな気づ

きと考え」で、「続きがしたい！もっと調べたい。」と思っています。「プランクトンのことをもっともっと調べたい、水のごよれの原因は何なのかもっと調べたい。」等々。そして、調べたことを友だちや下学年・家族の人にも伝えたいとも言います。

何よりも、いろんな人々に支えられてこそその体験学習であったことに感謝の気持ちを表しています。「大勢の先生や食堂の人、船長さんたちがいないとできない。」ことに改めて気づき、振り返り、「こんなことをしたい。」と動き出します。マザーレイクであるびわ湖への感謝も忘れません。だから、「びわ湖が傷ついていることに気づいた。気づけたので、びわ湖に害を与えないようにしたい。」とか「二日間の船でできたのだから、家でもしてみた。」のように、自分でできることを行動に移してくれています。

このように、「気づきがあれば、子どもは動き出せる」と思うのです。今年度は、各校に「かきくけ航海」を生み出していただくことを目指していますが、子どもが「考える」「気づく」「工夫する」「継続する」「行動する」を繰り返すことによって、自己が持った課題を追究させたい、そのためには、「子どもの心に火をつけ、子どもの心が動く学び」を構築させなければと考えています。先生方には、乗船前・乗船中・乗船後に、多くの具体的な手だてを講じていただいておりますことに、感謝！感謝！です。

かきくけコーナー

夏休み中、フローティングスクール事務所に母子お二人が来所されました。夏休みの自由研究の相談でした。6月に「うみのこ」に乗った時に学習したプランクトンをテーマに研究をしたいとのことでした。学習のしおりは学校に提出したままなので、もう1部ほしいことと手製のプランクトンネットの出来栄を尋ねておられました。たまたまその航海に乗船していた所員が事務所勤務でしたので、一緒に乗船していたことを告げたり、どうしたらよくプランクトンが見えるのか質問したりされていました。まさに、学びが続いている「かきくけ航海」だと感じました。

今年度乗船してきてくださった先生方のフローティングスクールの乗船前の学習・乗船後の学習・学校代表者の所感の一端を、次頁に紹介させていただきます。

乗船前の学習（校区の特性や既習事項からF Sの学習につながる課題を見つける。）

例・滋賀県の地理や琵琶湖の4つの島、プランクトン、固有種などについて調べた。

- ・琵琶湖について知っていることを話し合い、もっと知りたいことを整理させた。
- ・琵琶湖博物館から講師を招き、琵琶湖の地形や歴史について学んだ。
- ・校区を流れる川の源流と河口付近の水を調べ、水がなぜ汚れるのかを考えた。
- ・琵琶湖の何について興味を持ち、自分の課題を追究していきたいかを見極めるために、事前に「琵琶湖クイズ」に挑戦して、そこから調べ学習をスタートした。

○航海で設定した学習テーマに関して、各校それぞれの学習展開をしたのち、学習のしおりの「学習のめあて」を各自が記入し、航海に臨む。



乗船後の学習（航海において生まれた課題についての発展的な学習）

例・琵琶湖の環境をよりよくするため、自分たちができることを考え、発表した。

- ・「プランクトン」「びわ湖の魚」「やまのことうみのこ」など各自が決めた課題についてまとめ、ポスターセッションの形で発表会を行った。
- ・実際に見た白石や沖島について調べるなど、F Sでの経験をもとにしているからこそ意欲的に取り組んでいる。
- ・調べたことを交流することで、自分が調べていないことにも興味をもった感想があった。
- ・家庭での水の使い方や、水を浄化する貝のことなどについて、新聞を作成し他学年に発信させたい。
- ・びわ湖環境学習のまとめをした際、新たな課題が見つかった。課題として設定し、2学期以降の学習で解決していきたい。琵琶湖にとって最もよい環境とはどんな環境なのかを考え、その環境をつくるために自分たちにできることは何なのか児童一人ひとりが考え、まとめていく予定である。

学校代表者の所感

例・「かきくけ航海」をめあてに航海に臨んだ。出航式の所長・教育長の言葉の重さを児童も教師も胸に、体験できることの全てを五感に響かせながら学ぶことができた。

- ・本校の今年度の重点目標に照らして、フローティングスクールの学びは大変重要なものとなった。びわ湖学習での新たな知に驚き、考え、学んだことを交流できたことは大変意義深いものだった。
- ・子どもたち一人ひとりが、“学習のめあて”をしっかりと持てるようにしておくことと、重点目標（かきくけ航海）について教師が十分に理解しておくことが、いかに大事であるかがよくわかった。
- ・事前学習での課題の自覚化が重要である。乗船中の学習に対する視点が鋭くなり、事後学習の広がりが充実する成果とつながる。
- ・今年度より2日目の活動に「学習のまとめ」が加わったが、事前指導から指導者自身がその意味をよく理解し、見通しをもって活動させる必要があると感じた。
- ・環境学習という点では、学校紹介の折にでも、それまでのびわ湖学習の取り組みについて発表できると更に良かったと思っている。
- ・「奇跡的な命との出会い」が多くあったと思う。今はその大切さに気がついていないかもしれないが何年後かにきっとF Sのことを思い出し、その価値を改めて学ぶと確信する。